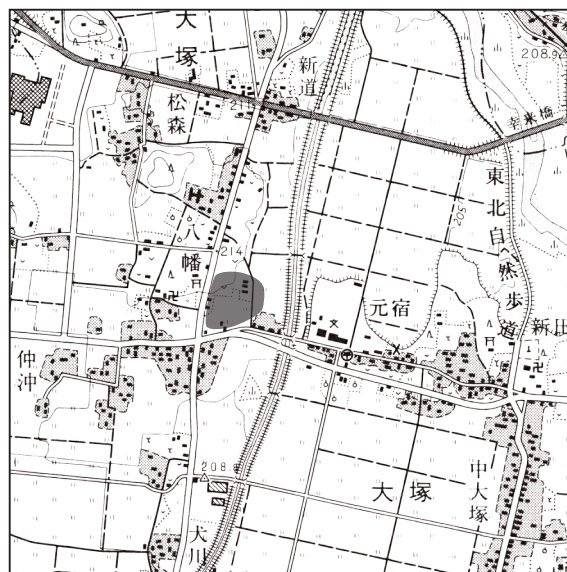


やわたいち 八幡一遺跡 (第2次)

遺跡番号	382-194
調査次数	第2次
所在地	山形県東置賜郡川西町大字西大塚字八幡一
北緯・東経	38度02分42秒・140度03分53秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業	一般国道113号梨郷道路事業
調査面積	300㎡
受託期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日
現地調査	平成29年7月3日～9月5日
調査担当者	水戸部秀樹(現場責任者)・五十嵐萌
調査協力	川西町教育委員会・置賜教育事務所
遺跡種別	集落跡
時代	奈良時代・平安時代・中世・近世
遺構	井戸・土坑・柱穴
遺物	土師器・須恵器・陶磁器・石製品・木製品(文化財認定箱数：10箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

当遺跡は最上川にそそぐ元宿川左岸の低地に位置している。第1次調査では、底部に「佛法爲」と刻まれた9世紀前半の須恵器小型壺、板碑、五輪塔、相輪など仏教に関する遺物や、長崎県を主な産地とする滑石製石鍋などが出土した。遺構は旧河道、中世の素掘り井戸、縦板組隅柱横棧どめ井戸、近世の木棺墓、柱穴群などが検出された。遺物の大半は旧河道から出土しており、周囲から廃棄されたものだと考えられる。

調査の成果

第2次調査区は、第1次調査時に着手できなかった個所である。狭い面積を対象とした調査であったが、7基の素掘り井戸、1基の縦板組横棧どめ井戸、4基の土坑、柱穴などが検出された。

検出された井戸のうち、水が湧く深さまで掘り下げられていたものは2基の素掘り井戸と縦板組横棧どめ井戸だけである。ほかの5基は帯水層の深さまで達しておらず、湧水はなかった。また、第1次調査区内だが、隣接した個所で湧水のある素掘り井戸を1基検出している。

湧水が無いものを井戸と呼べるのか疑問だが、狭い範囲に集中していることから、良質な水が湧く場所を探して

幾度も試し掘りをしていたのではないかと考えている。帯水層は周囲一带に広がっているはずで、ある一定の深さに達すれば湧水を得られただろう。しかし掘る場所によっては、帯水層より上位に泥炭層が存在しているため、溶け出した泥炭層によって水が濁ってしまう可能性が高い。濁らない水を得るために、泥炭層が存在しない場所を探し、泥炭層に当たった時はそれ以上掘り下げずに放棄、あるいは埋め戻したのではないだろうか。

縦板組横棧どめ井戸に使用された木材は、縦板一枚と井戸底に設置した横棧を除いて抜き取られていた。

井戸からは曲物や須恵器などが出土したが、詳しい年代は理化学的年代測定を行ってから判断する予定である。

まとめ

第1・2次調査区は湿地とその周辺部に位置しており、遺跡の中心部ではないだろう。出土した遺物の大半も北側にある微高地から廃棄されたものであり、微高地上には、古代から近世を中心とした遺跡が存在する可能性が高い。出土遺物からは、仏教に関わる施設も含まれていることが示唆できよう。

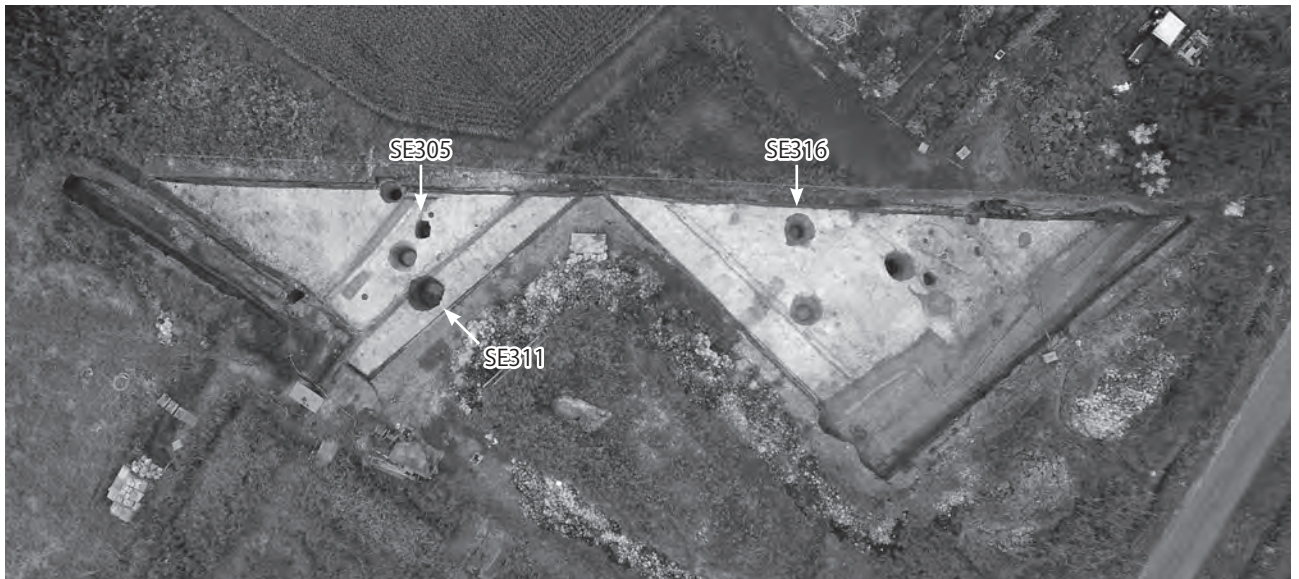


写真1 調査区全景（上が北）

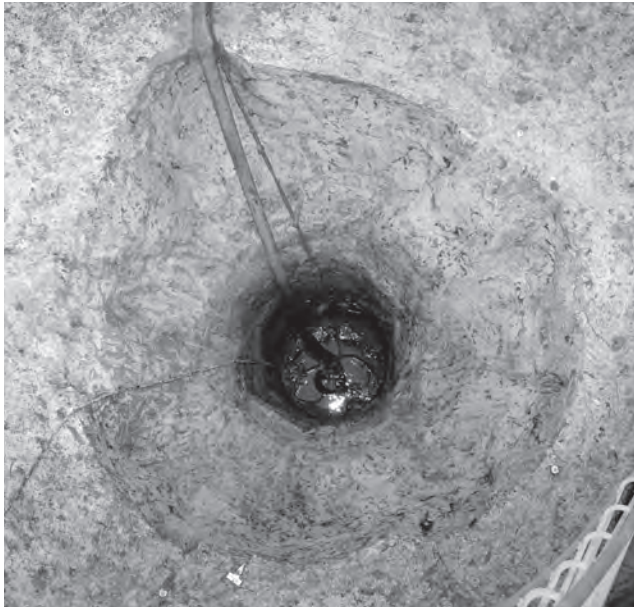


写真2 湧水のある素掘り井戸 SE316（深さ：約 3m，東から）



写真3 湧水のない素掘り井戸 SE305（深さ：約 1.9m，西から）



写真4 湧水のある縦板組横棧どめ井戸 SE311 の断面（東から）

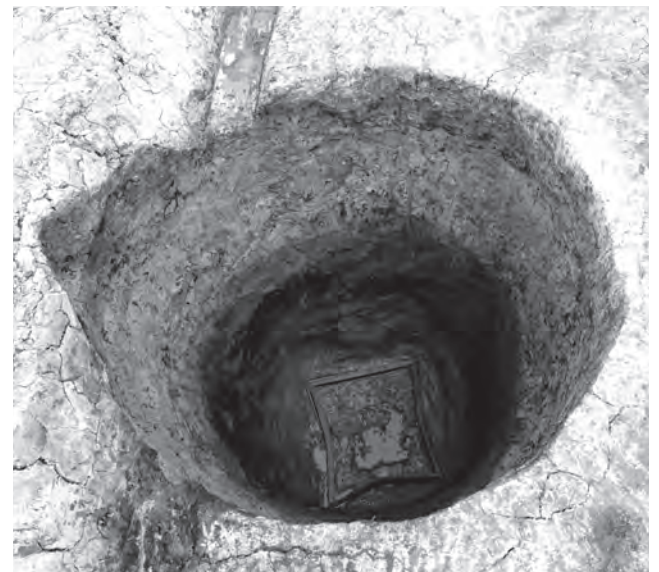


写真5 縦板組横棧どめ井戸 SE311（深さ：約 2.4m，南から）